



渋谷キャンパスのモニュメント「翔」

「問い直す」「学び合う」「共に生きる」。
共生社会を担う人材の育成を目指し
伝統を受け継ぎながら、未来をひらく。

SUMMARY

文学部・神道文化学部・法学部・経済学部・人間開発学部・観光まちづくり学部の6学部13学科と大学院3研究科を擁する國學院大學は、皇典講究所を母体として設立された大学です。皇典講究所は神道・国学の研究教育機関として明治15（1882）年に創立されました。明治23（1890）年公表の「國學院設立趣意書」には、「国史・国文・国法」の分野を学ぶだけでなく、諸外国の「百科ノ学」も網羅兼修する必要があると記されています。日本文化を学び、他の国の在り方も学び、未来を見据える姿勢は、140年以上にわたって受け継がれてきたものです。國學院大學ではこれを軸に、他者への理解と尊重を併せ持った、共生社会を創り出す人材の育成に取り組んでいます。



はりもとまさゆき
針本正行学長

1974年國學院大學文学部文学科卒業。
79年同大學大学院文学研究科博士課程後
期単位取得満期退学、専門は平安時代文学。
文学部長、副学長を経て2019年より現職。

01

140有余年を貫く建学の精神
「日本を知り、世界を知る」

日

本の歴史や文化を理解し、その在り方を問い直す。異文化に触れ、世界とつながる。國學院大學の原点には、このような「日本を知り、世界を知る」精神があるのだと針本正行学長は話します。

「今から143年前、國學院大學の母体である皇典講究所の初代総裁・有栖川宮職仁親王は、明治15（1882）年11月4日の開校式において、自分たちのルーツを顧みる大切さと、それが社会の発展と多文化共生に必要であることを説きました。日本文化を学び、他の国の在り方を学び、改めて、日本の在り方を問い直す。この建学の精神は、グローバル化が進む現代においてますます重要となつていきます」。

なぜ今、「問い直す」ことが重要になつてきているのでしょうか。針本学長はこう続けます。「現代社会は、Aの急速な進化によって、予測不可能な変化の渦中にいます。こうした時代に求められるのは、与えられた情報をただ正解だと信じるのではなく、自ら主体的に問いを立て、深く思考する力です。本学の学びの本質は、物事の根本原理を明らかにし、真理を探究することにあります」。

針本学長はさらに、他者との関わりの中で自らを問い直すことが、「共に生きる力」を育むことにつながるかと話します。

「論語に、『人知らずして慍^いらず』という言葉があります。自分の考えが他者に理解されないとき、感情的になるのではなく、それを『自らの知を問い直す機会』だと捉えてみてください。他者からの指摘や異なる意見に触れることで、自身の考え方が相対化され、知を深める契機となるからです。異なる価値観を持つ仲間と出会

03

難関試験合格者を毎年輩出
独自のプログラム「K-PLAS」

キ

ヤリア支援においても充実したサポート体制が整う國學院大學。その柱の一つが、難関試験突破を支える独自のプログラム「K-PLAS」です。

K-PLASには、公務員試験に欠かせない政策研究と数的処理を学習し、最難関の国家公務員総合職への合格を目指す「公務員合格コース」、簿記の資格を取り、三大国家資格の一つである公認会計士試験合格を目指す「公認会計士コース」、宅地建物取引士をはじめ各種国家資格や就職に役立つ難関資格の合格を目指す「資格合格コース」の3つがあります。いずれの試験にも長期にわたる学習の積み重ねが欠かせないため、モチベーションを絶やすことなく着実にステップアップしていけるようカリキュラムを構築しています。

その成果は着実に実っており、国家公務員総合職試験では2022年度から4年連続でキャリア官僚を輩出。公認会計士試験においても、2021年度から5年連続で現役合格者を輩出。外部のスクールよりも価格を抑えた國學院大専用受講料を設定し、奨学金制度も設けるなど、費用の面でも手厚い支援を実現しています。

04

教員就職者総数350名以上
「教職の國學院」の実績

國

學院大學は、これまで多くの教員を社会に送り出してきたことから「教職の國學院」ともいわれています。120年以上にわたる教員養成教育の伝統を継

い、共に認め合いながら問いを深めていく。そうした学び合いの積み重ねが、他者と共に生きる力となり、これからの社会を生き抜くために必要な力となるでしょう。

02

ケンブリッジ大学と協定締結
多様な人々が学び合う場に

問

「問い直す」「学び合う」「共に生きる」。針本学長が語ったこれら3つの言葉は國學院大學を象徴するキーワードで、教育目標に定められています。そして、多様な人たちが学び合い、共に生きるキャンパスを実現するための取り組みの一つとして、海外の大学とのネットワークを年々拡充。令和7（2025）年度には、ケンブリッジ大学アジア・中東研究学部と協定を締結しました。針本学長は、「世界中の日本研究者が集う『知の拠点』として、異文化と交わりながら自国の文化を多角的に問い直す、本学らしい国際化を積極的に進めています」と話します。

このほかにも、大学の中期5カ年計画（行動計画）において「さまざまな背景を持った学生・教職員が共に学び合えるキャンパスの実現」を掲げ、外国人留学生比率を0.39%（2022年時点）から2%に増やすことなどを目指しています。現在は約100名の留学生が学んでおり、留学生を含む複数の学生が集い、交流する「International Coffee Hour」、留学生のパートナーとして日本語学習をはじめとするサポートを行う「日本語パートナー」、留学生の日常生活をサポートし、彼らと共に日本文化を学ぶ「K-STEPアシスタント」など、学内にいながら密度の高い国際交流ができる機会も豊富です。

文化的背景や思考様式の異なる他者と学び合うことで、多様性への理解を深め、共生社会で

承し、その中で培ったメソッドを進化させながら、教職・保育職への道を強力にバックアップ。その内容は、教育小論文対策などの教員採用試験対策にとどまらず、「教育インターンシップ体験」や「近隣の中学校・高等学校での授業見学会」など、現場での実践力を重視したものとなっています。さらに、全国各地で教壇に立つ卒業生の若手教員と教員採用試験に合格した在学生らが集う「院友若手教員・教員採用試験合格者交流会」など、卒業生の現職教員との交流の場も用意。教職・保育職に就いている卒業生の層の厚さとネットワークを活かした支援を行っている。

こうした取り組みが全国有数の教員養成実績に結びつき、毎年、卒業生の約3人に1人から4人に1人が教員免許状を取得。2025年度は、就職者数2203名のうち教員就職者数は243名（高等学校、中学校、小学校、幼稚園、保育園、特別支援学校を合わせた人数）で、約10人に1人が教職・保育職の道に進みました。学部別にみると、文学部が51名（就職者数608人）、人間開発学部が181名（同322人）と多数を占めています。さらに既卒者と大学院修了者を合わせると、教員就職者総数は350名以上のほり、「教職の國學院」を示す確かな実績を積み上げています。



國學院大學博物館。本物の学術資料に日常的に触れられる環境を提供している